

令和5年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東住吉区
学校名 矢田西小学校
学校長名 宮川 潤一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動をご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・矢田西小学校では、第6学年 41名

令和5年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語科・算数科とも、平均正答率は大阪市、全国平均より下回った。平均無解答率については、昨年度は国語科・算数科とも大阪市、全国平均より上回っていたが、今年度は、算数科は大阪市、全国平均より少なかった。領域別の平均正答率では、国語科は「書く」、算数科は「変化と関係」以外の領域の正答率は、昨年度より全国平均との差が小さくなっている。国語科は「A 話すこと・聞くこと」のみ3ポイント程度大阪市、全国平均を上回ったが、それ以外は下回った。特に「書くこと」については大阪市、全国平均より10ポイント以上の開きがあった。算数科についてもすべての領域で大阪市、全国平均を下回ったが「変化と関係」については大阪市、全国平均との差が一番小さく、2ポイント程度の差となっている。

質問紙は、人権感覚、話合い活動、読書に関する項目の肯定的な回答は、いずれも高い数値となっており、大阪市、全国平均を上回る結果となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】平均無解答率は、昨年度より大阪市・全国平均との差が小さくなり、年々、粘り強く問題解決に取り組む姿勢が身についてきている。学習指導要領の内容の各項目については、「A 話すこと・聞くこと」以外は大阪市・全国平均を下回っており、基礎・基本の定着が弱いことがうかがえる結果となった。特に「書くこと」については、大阪市・全国平均を10ポイント以上下回っており、書く力が十分に身についていないことが分かった。

【算数】昨年度は大阪市・全国平均より10ポイント以上下回っていたが、今年度は6ポイント程度と差が小さくなかった。無解答率においても、大阪市・全国平均より低くなっている。日頃から粘り強く学習に取り組んできた成果が見えた。しかし、「図形」「データの活用」については10ポイント前後、大阪市・全国平均より正答率が低く、図形を構成する要素や目的に応じたデータに着目し、必要な情報を読み取ることが苦手と考えられる。児童質問紙の「算数の勉強は好きですか」「算数の授業の内容はよく分かりますか」の肯定的な回答結果が大阪市・全国平均と同程度か上回っていることから、学習への意欲や自信と、学習の成果に差異が見られる。

質問紙調査より

各項目の肯定的な回答が、「人が困っているときは、進んで助けていますか」(92.3%)、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」(100%)、「読書は好きですか」(79.5%)、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」(89.8%)、「あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めている」(87.2%)となっており、これらの項目は、大阪市・全国平均を上回る結果となっている。思いやりや人権を尊重する心情が育ってきており、子どもたちの学びへの意識も着実に高まっている。しかし、「5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の項目では、週一回以上という回答が23.1%しかおらず、学習の中で十分にICT機器を活用できない現状が明らかとなった。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、人格の形成が学校教育の大きな目標の一つであり、学力向上に特化した教育にならないようバランス感覚を大切にして取り組みを進めてきた。学力向上は1年でできるものではなく、6年間の長いスパンを意識して、今後もこれまで取り組んできた以下の5項目に継続して取り組むとともに、学力向上支援チームとも連携して教員の授業力向上を図り、学力向上に繋げていく。また、ICT教育アシスタントと連携し、ICT機器を活用した学習を進めていく。

- 1 すべての子に確かな学力を身につけるために授業改善を行い、授業をとおして学力向上を図る。
- 2 学力の基礎となる挑む力・やりきる力を育てる。
- 3 互いに学び合い高め合う集団を育てる。
- 4 学力状況の分析を行い、課題を明らかにしてチームで学力向上に取り組む。
- 5 家庭での学習習慣が確立できるようにする。